



はとり

学校教育目標「自ら学び、共に高め合う児童生徒」

令和5年5月22日
No.1
担当：服織中学校

服織中学校区では、9年間を通して連続的・系統的な教育活動の軸となる取組を「輝く自分づくり」としております。生徒指導、学習、特別活動、特別支援教育を4つの柱とし、地域の皆様とともに学校教育目標「自ら学び、共に高め合う児童生徒」の達成に向け、目標やビジョンを共有し教育活動を展開していきたいと考えております。ご協力の程、よろしくお願いたします。

5月12日(金)に第1回運営協議会が実施され、各小学校区の自治会長様、各PTA会長様、地域のこども園長様等にご参加いただきました。下の図は本年度の服織中学校区(服織中・服織小・服織西小・南藁科小)小中一貫教育全体構想図です。



また、その後のグループワークにて、以下のようなご意見をいただきました。

<全体構想図について>

- ・自分で考えて決定していけるように成長してほしい。
- ・「自分みがき」は自己肯定感、「社会性みがき」は友達や地域との関わり。この両輪で自分を高め、社会性を広げてほしい。
- ・幼保小の関わりや交流も視野に入れていきたい。
- ・各校の特徴から具体的な取り組みの説明があると良い。
- ・4校での合同体験活動を取り入れるとより意識が高まるのでは。

<その他>

- ・こどもたちの挨拶が素晴らしいのは大変感心している。
- ・コロナ前の活動に戻りつつあり、こどもたちが地域の活動に参加できると良いが、こどもたちは土日の活動もあり難しさを感じている。
- ・小学校区が垣根なく関わっていけることを考えていきたい。
- ・メディアに関する問題は自己調整力が必要。

全体研修会

5月12日(金)に4校教職員による全体研修会を実施しました。構想図の4つの柱のグループに分かれ、本年度の4校で共通して取り組む内容について検討しました。今回は、生徒指導部の取り組みについて紹介します。

<生徒指導部の取り組み>

今年度、生徒指導部では、「自分のよさを生かして、自分や周りのために行動できる児童生徒」の育成を目指し、4校合わせて27名の教員を主な担い手として、各校の教育活動を推進していきます。その際のキーワードとなるのが、児童生徒の「自己肯定感」・「自己有用感」です。自己肯定感とは、「自らの価値や存在意義を肯定できる感情」であり、自己有用感とは、「他人の役に立った、他人に喜んでもらえたなど、他者から評価されて生まれてくる感情」であります。



全体研修会生徒指導部の様子

その実現のための具体的な手立てとして、以下の4つに取り組みます。

- (1) 児童生徒への支援方法や支援体制の共有
 - ・4校のいじめ防止基本方針を基に、いじめの未然防止の手立てについて共有する。
 - ・「小学校から中学校へ」縦のつながりを持ち、個に応じた指導・支援方法を共有する。(9年間を通して、子どもを育てる)
- (2) 校則見直しについての意見交換
 - ・令和6年度に市教委が目指す「児童生徒が主体的に考えた校則が社会の変化に対応しているか検証する」に向けた、各校の取り組みを共有する。
 - ・「子ども自身に考えさせる指導」を通して、規範意識やマナーを育てる指導を進めていく。
- (3) 活躍の場・認める場の設定と情報交換
 - ・自己肯定感や自己有用感を育成する機会を意図的に設定し、有効な具体例を共有する。
- (4) 道徳の重点項目の実践・共有
 - ・「個性の伸長」「友情・信頼」の価値に重点を置き、道徳教育を実践する。

令和5年度小中一貫教育年間計画(主な計画を抜粋)

- ・各校授業公開週間(運営委員、全教員)
服織中(5月29日～6月2日)、南藁科小(6月20日～23日)、
服織西小(10月23日～10月27日)、服織小(1月25日)
- ・全体研修会(全教員)
①5月12日 ②7月31日 ③1月25日
- ・各校学校評議員会(学校評議員)
各校年間3回実施
- ・運営協議会(運営委員)
①5月12日 ②3月1日